



Newsletter February 2008

Dear friends and future volunteers

今から丁度 10 年前の 1998 年に、Humana People to People は、インドで初めて活動を始めました。その活動は、急速に成長しました。多くの新しいプロジェクトが、北のラジャスタンとデリーで、南のタミル・ナドゥで最初に始まりました。タミル・ナドゥの地域のうちの一つは、数年前に破壊的な津波被害があった地域です。

インドの Humana People to People は、多くの異なるプロジェクトを実施しています。例えば、マイクロファイナンス（金融）プロジェクト、環境と水のプロジェクト、HIV/AIDS キャンペーンや TCE プロジェクト、小農民たちへの収穫高向上と教育活動などが挙げられます。（詳細は www.humana-india.org を参照）

今回のニュースレターでは、The Academy for Working Children (AWC) と The Training Centre for Global Development (TCGD) のプロジェクトについて紹介します。

教育の権利は、人権の一つとして世界で同意され、国連憲章第26条に記載されています。特に、初等教育を普及する公約が、ミレニアム開発目標（MDGs）の目標2「初等教育を完全に普及させる」で表記されています。これは、2015年までに、全ての子どもが男女の区別なく初等教育の全課程を修了できるようにすることを目標としています。

2006年のタイムズによると、インドにおいて学校を辞めた子どもたちの数は、7,056,000でした。

「働く子ども達のための学校」というと、皆さんには矛盾のように聞こえるかもしれません。しかし、インドの多くの子どもたちの現状は、学校に通うのではなく、働くことにあります。彼らは、彼ら自身と家族の生活を支えるために働かなくてはなりません。そのため、もし私たちが、これらの子どもたちに読み書きを学ぶ機会を与えたいのなら、彼らに合った学習方法を考えなければなりません。そこで、私たちは「働く子ども達のための学校」を設立し、彼らの仕事の前、または後に学習を受けてもらうことにしました。



この学校の目的は、子どもたちに読み書き、基礎算数と一般知識を教えることです。それと同時に、子どもたちは、初等教育を受ける可能性を強化する自信と生活技術を習得します。子ども達は、インドのHumana People to People学習センターで1~3年後、一般の小学校に入学することが奨励されます。



Newsletter February 2008

働く子ども達のための学校（AWC）は、学校に通わないストリートチルドレンと働く子ども達のために設立しました。

AWCの学習センターは、20～50人の子ども達が生活し、教育を受けずに働いている都市で設立されます。これは、レンガ工場の群れをなすスラムの真ん中や、ダーバー（小さな道路にあるホテル）、高速道路にある店の中に設立します。

新しい学習センターを運営する先生達は、インドのHumana People to Peopleと一緒に働いています。彼らの仕事は、学校を辞めた多くの子ども達の地域を捜し当てること、コミュニティと一緒に学校を設立するアイデアを紹介すること、無料で運営できる学校の場所を探すこと、2～3年間に子ども達を集めて、学習センターを運営するための資金を調達することです。



このような子ども達に対して、教育の普及につとめるときに遭遇する最大の問題は、彼らの両親の無知にあります。問題は、学校がないということではありません。子ども達は廃品回収や靴磨きなどの仕事を通して、一日最高40ルピー稼ぐことができます。また、安い労働力ですむがゆえに、地元の工場で働き、労力を利用されています。このため、プロジェクトは子ども達だけと一緒に活動をするものではありません。教育の重要性を教えて子ども達への搾取と戦うために、両親とコミュニティ全体と一緒に活動を行います。

AWCプロジェクトは、定期的な健康チェックを行うことで、健康と衛生の問題に対処する活動も行っています。学校には2つのクラスがあります。それらは、子ども達に普通教育制度に戻れるように準備されています。これは、3年間の任期の後、AWCセンターがスタッフや資料、経験と一緒に必要とされる新しい場所に移ることができることを意味しています。

インドのHumana People to Peopleは、現在、ラジャスタン、ハリヤナとウッタル・プラデーシュ州で12の学習センターとともに5つのAWCプロジェクトを運営しています。1000人の子ども達が、これらのセンターから支援を受けています。



Newsletter February 2008

Developments Instructors positions in Humana Projects in India

2006年、CICDはインドのプロジェクトに、最初の開発インストラクター (Development Instructor, ボランティア) を派遣しました。DRHスクールの中では、ノルウェーとCICDの開発インストラクターが、インドでの6ヶ月間のボランティア活動に参加することができます。

CICDから派遣される開発インストラクターは、インドに派遣された場合、以下のプロジェクトで活動することができます。

1. Training Centre for Global Development (the term used for DRH in India), ポンディシェリ
2. Training Centre for Global Development, ハリヤナ
3. Total Control of the Epidemic (TCE), Narela- デリー
4. Green Post Tsunami Action, タミル・ナドゥ

開発インストラクターは、彼ら自身が選択したプロジェクトとプログラムに対して、責任をもって活動する必要があります。インドのHumana People to Peopleによって実行される全ての開発支援活動は、数(量)と品質によって評価することができます。各プロジェクトとプログラムは、パートナーによって支えられています。

多くの開発インストラクターは、活動内容を記録する仕事も行います。インドで私達が活動する一部のプロジェクトでは、多くの人々は流暢な英語を話さず、書くこともできません。また、多くの人々は、コンピューターの使い方を知りません。そのため、データを編集し、結果をリストアップして統計を出すことができる開発インストラクターは、プロジェクトに大きく貢献することができます。その他にも、スタッフの教育や英語レッスン、資金収集など、開発インストラクターが、プロジェクトで活動するに際して貢献できる多くのものがあります。

シレのレポート

シレはエストニア出身の、CICD2006年9月チームに参加した開発インストラクターです。彼女は、ポンディシェリのTCGDプロジェクトに派遣されました。

—世界の全ては時間を必要とし、その時間はあります。「時間がない」ということは、存在しません。他よりも重要なだけです。それは十分におかしいことです。

それは、私達が世界中から多く集まるボランティアと共有していた、CICDのトイレのドアに書かれていました。そう、それは心の中で、私達自身が私たちの時間を使うものなのです。

私はボランティアとして、長い間、世界の様々な場所で働いていました。私はその後、CICDプログラムに参加し、インド・ポンディシェリにあるTraining Center for Global Development (TCGD)プロジェクトで6ヶ月間(3月～8月)、先生の仕事をしていました。この6ヶ月間は、私の人生に、全く新しい多くのものを与えてくれた、とても素晴らしい時間でした。また、この6ヶ月間は、私の人生の中で、行きたいものでした。私は、私の仕事と生徒やスタッフ達と過ごす時間をとても楽しみました。そのため、私は私の仕事を終わらせるためと、生徒やスタッフ達と一緒に過ごすために、短い時間でしたが、11月に戻ることを決意しました。

ボランティアとして働くことは、様々な点で可能です。あなたは何かをするとき、自分の道を見つけることができます。あなたは、あなたの友達に手伝い尋ねることができたり、多くの人々を集めて、彼らに知識と経験を用いて働くことができる、特別な機会を与えることができます。それは、お茶を入れるようなものです。あなたがミルクとお茶と砂糖を混ぜたら、そこから何も良いものはうまれません。いい味を出すためには、沸騰させる時間が必要です。

それは、TCGDで私達が行っていることです。TCGDは、CICDと同じDRHスクールです。インドで開発支援活動を行いたい現地の人々を集め、TCGDは彼らに6ヶ月間のトレーニングを行います。トレーニングを受けた生徒達はその後、インドでHumana People to Peopleの開発支援活動に参加します。



Newsletter February 2008



私にとってインドとはどういうものだったのかー。

インドでは、あなたがあなた自身をどのように良く準備しても、それは重要ではないです。現実には、いつも異なるもので、思いがけないものです。私は、ここで、多くの人々の親切に出会うことを想像していませんでした。また、それと同時に、多くの否定的な意見、貧困、嘘の約束にも会うことも想像していませんでした。

私は本当に闘いました。私は、覚悟ができていたと思いました。とても親切であるということは、時に危険でもあります。道端で、乞食を見ることは心が痛みます。しかし、私はお金で彼らを助けることはできません。私はボランティアです。私は私の時間を与えることができます。しかし、私はただの人間です。お金でもなく、白人でもありません。私が通り過ぎるとき、若者達が私に侮辱をぶつけるのには、心が痛みました。私はいまだに、それに対する賢明な理由を見つけられずにいます。



私はただ、人々と彼らの状況を認めました。また、私には、気になる生徒がいました。その生徒は、いつも学ぶ意欲があり、全てに興味を持っていました。

私は多くの家族を訪問し、お互いを理解するために、「Tanglish」（タミル語＋英語）で話す努力をしました。そして、それは信じられないほどに素晴らしかったです。

多くの人々は私を心配しました。生徒達は、私がここで生活している間、気遣い、支えてくれました。彼らがどれだけ私を支えたか、私は決してそのことを忘れません。私がいなくても、私の心にはいつも彼らがいます。そして、私はいつか再び、彼らに再会できることを心から望みます。私はこの生活で、私自身と祖国の人々と共有できる、最高の贈り物を手に入れることができました。

私の最大のショックは、到着した時の交通でした。私はそれまで、まるでカオスのような大きな雑音に遭遇したことがありませんでした。これは慣れるには、とても難しいことでした。また、その他の極端な違いに、気候の違いもありました。何故ならば、私は夏には25度、冬には-25度に慣れていたので。

ボンディシェリのTCGDは、2006年の11月6日に、インドのHumana People to Peopleの3番目のTCGDとして開始されました。

私はデンマーク、イギリスとインドでの生活を忘れることができません。、私はエストニア人です。私は家を出発する前に、私は全ての知識と出会った人々からもらった愛と一緒に、家に戻ること



Newsletter February 2008

を私自身に約束をしました。

私はいつの日かインドに戻り、その時には私の仕事が継続され、なおかつ、インドが発展していることを望みます。私はいつもあなたを覚え、私の心の中にはいつもあなたが居ます。—

Thank you for your love and support Team I, Team II and teachers!

このような活動に興味のある方は、cicd05@yahoo.co.jp までご連絡ください。

- ・ 2008年3月と9月チームは、モザンビーク又はインドへ派遣！
- ・ 2008年5月と11月チームは、マラウイ、ナミビア、モザンビークのいずれかへ派遣！



*College for International
Co-operation and Development
@ Winestead Hall, Patrington
Hull, HU12 0NP
England*

Email: cicd05@yahoo.co.jp

Contact Details:

Tel: +44 (0)7813 854 298

+44 (0)1964 631 826

Fax: +44 (0)1964 631 695

Websites:

www.drh-movement.org

www.cicdvolunteer-japan.org.uk

www.humanapeopletopeople.org